

今、走れる喜び



▲号砲に合わせて一斉に走り出す



▲1本のタスキを繋ぐ大学駅伝の選手



▲ワイドー・ズミ大学駅伝大会、表彰式終了後、選手全員で記念撮影

宮古島ワイドー・ズミ大学駅伝大会は、2020年から始まった大会です。新型コロナウイルスの影響で21年は中止していましたが、22年に第2回大会を開催。

そして、今年2月12日、第3回大会が開催されました。スポーツアイランド宮古島の推進を目指して始まったこの大会は、宮古島で合宿を行っている立教大、芝浦工大と駅伝強豪の青山学院大、順天堂大、東洋大、東海大と沖縄・宮古島選抜チームが出場し、宮古島の駅伝ファンを喜ばせ、また今後の発展に期待できる大会です。

宮古島市では、「17ENDハーフマラソンin伊良部島大会」等、コロナの影響で中止、延期になっていたスポーツイベントが復活し、少しずつコロナ以前の日常を取り戻しています。

4月には世界屈指のハイレベルなレース、全日本宮古島トライアスロン大会が開催され、より一層、島全体が熱気に満ち溢れます。



この大会を4連覇した大林さん(愛知県)は自身の持つ大会記録を更新し、目標の6時間台でゴール。



100kmコースを女子一位でゴールしたのは、今大会初出場の高井さん(千葉県)

1月22日、新型コロナウイルスの影響で2年連続で中止となっていた、「第33回宮古島100キロワイドーマラソン大会」が開催されました。

まだ陽も上がりきらない早朝5時、少し肌寒いスタート地点の下地公園にはこの日を待ちわびていたランナーの皆さんが集まっていました。この日まで、100キロの桁外れに長いコースを完走するため、地道に走り込みを続けていた皆さんのレースが復活しました。

100kmの部は、伊良部大橋・来間大橋・池間大橋の3つの橋を渡るコースとなっていて、ランナーの皆さんは、沿道からの熱い声援を受けながら、宮古島の美しい風景を楽しみました。



スタート前に「ワイドー三唱」で気合いを入れるランナー達

復活！ワイドーマラソン